

平成二十五年二月十七日

朝、學童通學時間と同じ頃に家を出で、會社に行く。附近は住宅地なれどもこの時間帯、車の往來頻繁なり。通學路の要所要所に婦人立つ。旗を持って時に自動車を止め、子らの安全を確保す。

彼らは、兒童らの母親にして、日日當番を定め交代に立つものらし。過日の如く朝より雪降らば、相當の時間戸外に立つはさぞ冷たからむ寒からむと同情す。

この立ち番、學校又はPTAの取決めによるものと思ふ。シヨルダーバッグに朝刊を差しハイヒール履くは、働く母親なるべし。交通整理の後、家に寄らずそのまま職場に赴く出で立ちと見ゆ。彼等、さ無きだに忙しき朝に驅出さるるを氣の毒に思ふ。

我、この立ち番に就きて氣掛り有す。即ち、かの母親達全てが使命感持ちて交通整理し居るとは見えぬ。手に持つ旗にて自動車停止させつつ通り掛りの知人に會釋するはまだしも、親しき顔歩行者中に見つけ、お喋りに興ずる例珍しからず。話、興に入らば、彼が注意、車あるいは學童より逸ること必定。

然れども、誰かそを責むるを得む。いちいち交通整理の上手、責任感強きに限りて人を選び、さするにあらず。全員の持回りなるべし。しかも無報酬。受持の時間中ただ立つことのみを役目と解する人、不承不承の人、多多混る。更に、彼ら、自らの指示を自動車運轉する人に強制する權限無かるべし。權限なき者、責任と責任感有せざるも仕方なし。その昔、「みどりのをばさん」朝夕に學區の交通整理す。これ有給の公務員なりしかば、相應の使命感を期待さるるの理由あり、且つ事故ある時は責任の追求も可なり。

他方、自分を守るべき大人近くに居らば、たとひ彼がお喋りに忙しく車の動きに無頓著なる時も、子らは大人に頼りて自ら自動車を見るに缺くること多かるべし。更に、通行の自動車は近くに大人居らば子らの不意の驅出し抑制さるるを想定し、子の動きに充分なる注意せざるもあり得む。

つまりこの母親交通整理、時には交通事故防ぐよりも逆にそが發生の誘引となることあり得べし。まかり間違はば重大なる結果を招きかねざる役目、家庭の母親に負はせ、しかも事故招く危険あるこの慣行、年年續くは如何か。

人を選びて訓練し、通行規制の權限を付與して責任を負はせ、報酬はこれ拂ふを案として再検討すべし。財政苦しき環境は承知の上。安全はコストかけてこそ得らるれ。

